

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 学園町学童デイホーム遊育園

公表日 2025年4月30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		2		利用児童の増加にあたり、今後は児童のグループ分けを行う活動をするを検討する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	1		法令上は適切ではあるが、各曜日にあと一名職員が入ることで、より安定的な支援や職員の心の余裕といったところが生まれると思う。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2		児童にとって必要で目つきやすい視覚支援を提供している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2		毎日、活動後に掃除を行い清潔であることを保っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2		静養スペースを設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2		年に一度のアンケートを取っている。また保護者からの意見についても都度、改善を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	1		第三者による外部評価の仕組みを確認するとともに、積極的な外部評価の導入を行う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2		法人内での研修があり、どの年数の職員も研修に参加して、適切なスキルを身に付けることができている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2		リタリコというサイトを活用して、公表を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	2		半年に一度の面談時だけでなく、その他の時間にも随時保護者からのニーズに対応し、必要であれば計画の更新を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		児童一人ひとりの計画を照らし合わせながら、適切なあそびや支援計画を立てている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2		毎月、どのようなあそびを行うかといった計画を職員間で立てている。また各職員が行いことも積極的に取り入れている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2		日々行っている粗大運動や微細運動だけでなく、新たな活動内容の創発も行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	2			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2		どの職員がどの児童につくのかというポジショニングを日々決めて支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2		個別支援計画を確認しながらその場面ごとの達成度などを振り返っている。	送迎時間の逼迫により、その日中の振り返りが難しいことがある。翌日に振り返りの時間を設けることを意識している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	2		個別支援計画に基づいて記録を取ったり、支援の検証を行ったりしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	2			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	2		児童が主体であることを意識した声掛けを行っている。また職員間でも都度、どのような声掛けが適切かを確認している。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	1		医療と連携を行う機会があまりない。相談支援事業所を介すなどして、医療に関する情報収集も行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2		同法人内であれば丁寧な共有を行っている。	自事業所から同法人内への移行はあるが、他の障害福祉サービスへの移行実績がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		2		連携先の相談支援事業所と連絡を取りながらそのような体制の受け入れも行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2		法人内で年に数回、交流する数を決めて行っている。また地域の公園では他のこどもと一緒にあそぶこともある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		2		摂津市の協議会への参加のあり方を法人内で確認し、参加を行っている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2		送迎時にこどもの様子を伝えるとともに、新たに見えた課題についても共有している。	課題の共有だけでなく、事業所としての今後の支援方針も併せて伝えることができるよう職員の育成を行っていく。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		2		家族支援プログラムについての経験や知識がないため、まずはどんなことができるのかの情報収集を行う。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2		契約時に資料を使って説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	2			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2		送迎時に保護者からの相談がある際は適宜対応を行っている。すぐの返答が難しい場合は職員間で共有をしてから必ず返答をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		2		R7年度に保護者交流の場を設ける予定である。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2		その日のうちに今後の体制やどのような整備が必要かを明確にし、必ず伝えるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	1		YouTubeやInstagramでの発信を今後、行っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		個人情報の持ち出しをしないように徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		2		同法人が行っている地域活動に、自事業所も参入していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	2		契約時やアセスメント時に漏れないように確認を行っている。またてんかんについての資料を職員で読んで理解を深めている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2		契約時に保護者からエビペンの使用についてなど周知をしてもらっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2		そのことが起きた日のうちに共有をし、次なる改善策も必ず出し合い、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2		法人内に『虐待防止委員会』を設置し、職員間で確認を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2			虐待防止研修を行う時に触れるのみのため、月に一度など頻度を高めて、正職員・非常勤職員問わずに確認できるようにしていく。	